

2026年度

国語

(時間……………60分)
(配点……………100点)

注意事項

- 1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、10と表示のある問いに対してウと解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄のウにマークしなさい。

Table with 2 columns: 解答番号, 解答欄. Row 10 shows options A through E with circles for marking.

- 3. 解答を始める前に、解答用紙の座席番号欄に座席番号を記入し、マークしなさい。また、氏名も書きなさい。解答科目欄には解答する科目をマークしなさい(解答科目欄のマークを間違えた場合、0点となるのでよく確かめてマークすること)。

1

次の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。

- (1) 空欄を補うのに適切なものをそれぞれ一つ選べ。
(2) 傍線部のカタカナを漢字に直したときの部首を一つ選べ。
(3) 「掃蕩」と熟語の組み合わせが同じものを一つ選べ。
(4) 訓読み+音読みの読み方を示す熟語を一つ選べ。
(5) 「月にむら雲花に風」の意味としてもっとも適切なものを選べ。
(6) 「つつを抜かず」の意味としてもっとも適切なものを選べ。
(7) 傍線部の中で種類が異なるものを一つ選べ。
(8) 谷崎潤一郎の作品でないものを一つ選べ。

2

次の文章を読んで後の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。

エコロジーとエコノミー、この二つは必ずしも相性がいいとは言えない。たしかに、何事につけてもエコノミー優先の発想が、今日のようなエコロジーの危機をもたらしただけである。とりわけ産業革命以後の自然の搾取、それは顕著にあらわれている。

「経済学」と訳されるエコノミーとはそもそも、「家」を意味する「オイクス」と「規範」「法」を意味する「ノモス」が結びついた古代のギリシア語「オイクノミア」を語源とする。A「オイクノミア」は、家族の管理ないし運営という意味で「家政(論)」と訳されている。

一方、「生態学」と訳される「エコロジー」は、同じくこの「オイクス」に「言葉や理性や論理などを意味する「ロゴス」が組み合わされてきた一九世紀の新造語「ドイコロジー」である。B「本来は「家」の「論理」という意味なのだ。この「家」を、生態系全体を視野に入れて、自然環境ないし地球にまで拡大するなら、エコロジー的な発想につながるようになる。生き物はみんな、地球というひとつの「家」

ならないのだ。自然とはまさしく神の法であり、それに即して万物は増殖し保存され消滅していく。

ここではまだキリスト教神学的な考え方が生きていることに、皆さんも気づかれたことだろう。この点はカンがでない。わたしたちはやもするに、科学は宗教や神話とは相れないもので、それらと理解したところから成立したとみなしがちであるが、これはあまりにも、面的な理解であり、自然科学ははかでもなく欧米のキリスト教文化圏において発展してきたものであり、その主たる目的は、神が天地創造のときにインプットしたとみなされる隠れたプログラムを解読することにある、という側面ももっていたことは否定できない。かのニュートンでさえ、空間を「神の感覚中枢」と呼んだのだ(「光学」)。

リンネにとっても、エコノミーとは、神の創造した自然界で人間との関係の総体であり、自然のバランスと交換のことであり、それはいかにいえるなら、自然のうちに働いている「摂理(プロヴィデンス)」あるいは神の統治のことでもある。すでに指摘されてきたように、エコノミーすなわちオイクノミアという概念を古代ギリシア哲学「クセノフォンのアリストテレス」から受け継いだのは、初期キリスト教時代の神学者たちであった。彼らによってオイクノミアは、創造の秩序や世界の計画性や神の意図などといった意味に置き換えられ、さらには父と子と聖霊は実体を同じくする三位一体の教理へと発展していった。すなわち、父なる神の聖霊によって生まれた子(キリスト)に、この世の統治と政治が与えられるのである。それゆえエコノミーとは本来、生産と流通と消費、金融と財政といったごく狭い用法に限定されるものではない。訳語としての「経済」の本義も

に寄り添いながら構えているのだ。

このように、エコノミーとエコロジーはいわば共通のルーツをもっているのだが、では、より厳密に「ノモス」と「ロゴス」の違いはどこにあるのかと問いつめると、古代哲学史に深く立ち入ることになるだろう。それゆえここではひとまず、原理的なものとしてのロゴス、基準的なものとしてのノモスという、一般的な理解にとどめておくのがいいだろう。

いずれにしても、もともと自然哲学にかかわるエコノミーとエコロジーは、いわば兄弟が姉妹のような関係にあるにもかかわらず、それが忘れ去られてしまっただけで、あつたがも敵対する概念であるかのようにとらえられてきたとするなら、その原因は、資本主義的な経済の発展によって両者の関係が覆い隠されてきたことによると考えられる。

(中略)
さて、エコロジーという語が一九世紀に産声を上げるよりも前に、似たような意味でよく使われていたのは、実のところ「自然のエコノミー」という言い回しである。とはいえ、右に述べた語源のことをねんたくんに置くと、これはさして意外なことではないだろう。

C「人類学の父」と称されるスウェーデンの博物学者にして生物学者カール・フォン・リンネ(一七〇七―一七八八)には、まさしく「自然のエコノミー(オイクノミア・ナトゥラエ)」(一七四九年と題された著書がある。つまりこの「自然のエコノミー」とは、宇宙のすべてのものをつくって支配する造物主たる神によってあらかじめ定められた配分秩序のことであり、これに従って自然のあらゆる存在は相互的な関係を保ちつつ共通の目的に向かっている、というわけである。生物のすべての種あいだには、一定の秩序や均衡が存在するのであって、それは守られなければならない。また、「経世済民——世を経る民を濟す——」にあるわけだが、いまや後半の「民を濟す」の部分はますます忘れ去られ、逆に新自由主義的な経済は、格差を助長して民を苦しめているというのが現状であろう。そもそも御家アリス・トレス自身、必要に応じたのではなくて金儲けを目的とした交換活動を「クレマティステイク(取財術)」と呼んで釘を刺し、オイクノミアとはまじりばりとして区別していたのである(「政治学」)。話がやや脇道にそれってしまったかもしれないが、以上の点は前提として最初にしっかりと押さえておきたいところである。

さてここで「自然のエコノミー」に帰るなら、リンネよりも早くこの語を用いている自然哲学者がいた。イギリスのケネルム・デイヴィッドソン(一六〇三―一六五九)である。自然界は人間の家庭と同じである、有効な節約や分配や均衡によって機能している、というわけである。自然のエコノミーが人間のエコノミーになぞらえられているわけだが、たゞ人間が働かなくてはならないとしても、自然はエコノミー的に作用しているのである。

このような意味での「自然のエコノミー」は、一七世紀の後半においてすでに、空気ポンプやボイルの法則で知られる物理学者や化学者のロバート・ボイル(一六二七―一七〇九)や、地質学者でもあったトーマス・バーネット(一六二五頃―一七〇五)などにも認められるというから、比較的なじみのある言い回しだと想像される。

ここで改めて注意しておかなければならないのは、デイヴィッドソンにおいてもそうだが、「自然のエコノミー」といふときの「自然」が、形容詞(英語ではADJECTIVE)ではなくて、属格ないし所有格(英語ではNOUN)だということである。もし形容詞だとすると、人間が利用——はしばしば濫用——してきた自然の資源についてのエコノミー(経済)

指定校制推薦入学制度
総合型選抜入試

公募制推薦入試(前期)
併願制・専願制

公募制推薦入試(後期)
専願制

一般入試「第1期」

国語

一般入試「第2期」

という意味にも解されそうだが、そうではなく、あくまでもアリストテレス的でかつ神学的でもある「オイコノミア」の原義——つまり、その後

のエコロジにもつながる意味——が生きているのである。進化論のチャールズ・ダーウィン（一八〇九—一八八二）が、いまや生物学の古典中の古典となった『種の起源』（一八五九年）のなかで用いているのも、実は「自然のエコノミー」という言い回しである。あらゆる有機的

な存在は、「自然のエコノミー」のなかで各々の位置を獲得しようと努めるのだ。

従来、ダーウィンの進化論は、「種の起源」で示されヘッケルによって明示された系統樹モデルで理解されてきたが、近年、むしろ初期著作『サンゴ礁の分布と構造』（一八四二年）で説かれたようなサンゴ礁の進化モデルのほうが、環境との相互関係や偶発性に開かれた進化論の複雑さについてよく含致している、という解釈が提起されつつある。いずれにしても、ダーウィンの「自然のエコノミー」には、それまでにはなかった二重の含意がある。進化という概念からも明らかのように、一方ダーウィンは、リンネのように自然が一定の配分秩序に対応しているというよりも、ダイナミックに変化しているメカニズムを明らかにしようとする。他方では、その要異なし進化は、自然選択の法則に従ってされるから、環境に適應した個体だけが生き残るといことになる。つまり、ダーウィンにおける「自然のエコノミー」は、自然のバランスや均衡であるよりも、生き残りをかけた自然の競争である。その意味において進化とは、神が創造した秩序としての自然のエコノミーの終焉でもあるだろう。この原理を社会にも適用するなり、哲学者ハーバート・スペンサー（一八〇一—一九〇三）における適者生存のように、生き残って繁栄する

焦点が当てられていくのである。

では、なぜ詩的な探求は詩的で美的な想像力によって補われなければならないのか。フンボルトによると答えはこうだ。「自然の十全なるワザだいたさを記述しようとするなら、ただ外的現象だけを記述してはならない。その自然が反映されているイメージにも目を向けなければならない。そうしたイメージは、神話の架空の国を優雅な空想で満たすこともあれば、芸術的表象の高級な芽を咲かせることもある。」（Einhundertachtzig. 分析と直観、法則や連鎖として自然と調和あるひとつの全体としての自然とは、切り離すことができないものだ。分類や分析は科の役目だが、散らばった要素を統合できるのは芸術である、というのはまたゲーテの信念でもあった。

〔注1〕 風格：文法上名詞などの、主に所有関係を表す語形やしくみ（例えば英語の "of" のこと）。

〔注2〕 サンゴ礁の変化モデル：共通の祖先から枝分かれを繰り返すことで生物が進化したとする「系統樹モデル」に対し、サンゴ礁のように、枝分かれと絶滅を複雑に重ねながら進化が生じたこととらえる説のこと。

ために、既存の自然のエコノミーを突き崩し組み替えていくという発想にもつながるだろう。

それゆえしばしば『国富論』（一七七六年）のアダム・スミス（一七二三—一九〇）以来、同じくイギリスで発展してきた経済学——いわゆる「政治経済学（ポリティカル・エコノミー）」——と進化論との関係が指摘されてきたのも偶然ではない。よく引かれる比喩を借りるなら、ダーウィンの理論は、アダム・スミスの経済学が自然へと転写されたもの、という性格をもっているのだ。

これにたいして、<sup>10</sup>もと芸術的で感性的な基礎から出発していると思われるのがフンボルトである。いうまでもないことだが、分析的・概念的に自然を知るだけでは十分ではない。自然は五感をもって感じられるものでもある。芸術と科学は対立するものではなくて、互いに補充し合う関係にある。しかもフンボルトは、芸術における自然の描写こそが科学的探求の刺激となってきたことをはっきりと自覚している。

その証拠に、全五巻からなる未完の大著『コスモス』の第Ⅱ巻（一八四九年）は、この「自然研究を刺激するもの」に捧げられているのである。すなわち、「自然の純粋な感覚へと高められる生き生きとしたヴィジョンの源泉をたどり、とりわけ近年において、想像力を刺激することで自然の研究へと駆り立て、遠方の土地への旅にいざなう原因」として自然の探究といことである。そうした「刺激」には次の三つ、「自然の光景の美的（感性的）な記述」と「風景画」と「熱帯植物のより広範な栽培と珍種の収集」があるという。端的にいいうなら、文学と美術と収集である。こうして「さまざまな民族や時代」において、「いかに正確な知識の厳密な探求と、よりセンセーシブな想像力の働きとが、相互に浸透し合い融合してきた」かに

(1) 二重傍線部①⑥のカタカナの部分に漢字を直したとき、その漢字と同じ漢字を用いるものをそれぞれ一つずつ選ぶ。

① ねんとう

ア 糸乱れぬトウセイの取た動きを見せる。

イ 暗闇にトウミでトウかくる。

ウ 新人ながらチームでトウかくる。

エ 無事に目的地にトウかくる。

カ かな

ア 新しい建物にはいかなを設置する。

イ 美しい風景にかなどする。

ウ 寝ないで必死にかなびよする。

エ 週末までにポートをかせいせさせる。

ユ ナメ

ア リーダーにユンめいされる。

イ 応急シヨウチをほどく。

ウ 職場にタクシヨウを設置する。

エ 図書いいに運ばれる。

シ ヌ

ア ポスターを入口にけいじする。

イ ふくじ活動に参加する。

ウ パーティーのきょうじ係を務める。

エ 学校のシキょう式に出席する。

(2) 傍線部aの理由としても適切なものを選びなさい。

⑤ センさい、<sup>14</sup>ア この魚はセンサイが落ちて美味い。

イ この服は合成セーイで作られている。

ウ センもん家にアトバイスを求める。

エ センさんされたデザイナーの建築だ。

⑥ ソウだい、<sup>15</sup>ア 山頂からの眺めはソウかんだった。

イ 火山灰のちソウを調査する。

ウ 彼らは当時の文壇におけるソウへきと言われた作家だ。

エ 多様な意見をソウゴウ的に判断する。

⑦ ソウだい、<sup>16</sup>ア エコノミーとエコロジという二つの言葉は、どちらもこのうちSDGsの基本理念を表す、広く知られた語のなかで用いられているから。

イ エコノミーとエコロジという二つの言葉は、それぞれの語源を辿っていくと、意味において大きな相違がないことが明らかとなるから。

ウ エコノミーとエコロジという二つの言葉は、前者が古代ギリシア語、後者がドイツ語に由来しているというだけの違いしかないから。

エ エコノミーとエコロジという二つの言葉は、共に「家」を表す語に、それぞれ「モス」と「ロゴス」という同じ意味の言葉を加えて作られているから。

⑧ ソウだい、<sup>17</sup>ア 本文中のA・B・Cに入る語句の組み合わせとしても適切なものを選びなさい。

ア けれども、しかし、さながら

イ よって、すなわち、だから

ウ したがって、だが、一方

エ それゆえ、つまり、たゞとは

⑨ ソウだい、<sup>18</sup>ア 「エコノミー」という語は、もとより「自然のエコノミー」といって自然を指して使われていたが、資本主義的な経済の発展とともにそのような表現が徐々に廃れ、「エコノミー」と「エコロジ」がもともともっていった近近性が見失われていったこと

イ 資本主義的な近代経済学は、「エコノミー」の意味を、神によって定められた宇宙の配分秩序という本来のものから単なる「金儲け」へと変えてしまったため、「エコノミー」として自然を指し、「エコロジ」を専らするようになったこと

ウ 「エコノミー」という語の本来の意味からすると、新自由主義に至る資本主義的な近代経済学は限定的なものとなり競争原理を基本とするようになったため、「エコロジ」と本来の「エコノミー」との近似的関係が見落とされてきたこと

⑩ ソウだい、<sup>20</sup>ア あとで問題が起きないようにあらかじめ念を押すこと

イ 関連した考え方をより強く批判すること

ウ 物事の概観を描写し際立たせること

エ 失敗しても諦めず繰り返し挑戦すること

⑪ ソウだい、<sup>21</sup>ア デイグビーにおいては「自然のエコノミー」とは、人間の家庭でなされているような節約に基づいた自己保身を指すに

対し、リンネの場合は、神から自然にもたらされる恩恵を意味するので、両者の見解は基本的には異なっている。

イ デイグビーにおいては「自然のエコノミー」とは、人間の関与がなくとも機能する秩序だった働きを指し、リンネの場合は、神の法とは無関係に保たれるバランスのことを意味するので、自律的という点で両者の見解は異ならない。

ウ デイグビーにおいては「自然のエコノミー」とは、人間の家庭をモデルとした、自然に対する人間の働きかけを指すのに対し、リンネの場合は、自然のうちに働いている神の摂理を意味するので、両者の見解は大きく異なっている。

エ デイグビーにおいては「自然のエコノミー」とは、自然それ自体に本来的に備わっている、均衡を維持するような働きを指し、リンネの場合は、人間も含めた自然の働きに見出される摂理を意味するので、両者の見解は本質的に異なる。

(5) 傍線部cにおける、自然科学とキリスト教神学の関係について述べたものとしても最も適切なものを選びなさい。

ア キリスト教神学においては、この宇宙は、造物主である神の定める秩序に貫かれており、したがって万物は同じ目的を共有して存在しているとされる。

イ キリスト教神学においては、神は天地創造のときに自然の中に隠れたプログラムをインプットしているとみなされた。自然科学はそうした考え方を批判的に乗り越えようとすることで発展してきたといえる。

ウ キリスト教神学によると、自然は、造物主たる神によって創造された後は、神の支配を受けることなく、独自の秩序に従って発展してきた。自然科学は、そうした自然の理法の解明を目的として発展してきたといえる。

エ キリスト教神学によると、あらゆるものは神によって創造されたが、そのなかで人間だけが自由意志をもつ、自然に働きかける力をもった存在とされる。自然科学は、そうした自然と人間との関係を主題として発展してきたといえる。

(6) 傍線部dの語句の意味としても最も適切なものを選びなさい。

ア エコノミーとエコロジという二つの言葉は、共に「家」を表す語に、それぞれ「モス」と「ロゴス」という同じ意味の言葉を加えて作られているから。

イ エコノミーとエコロジという二つの言葉は、それぞれ古代ギリシア語、後者がドイツ語に由来しているというだけの違いしかないから。

ウ エコノミーとエコロジという二つの言葉は、前者が古代ギリシア語、後者がドイツ語に由来しているというだけの違いしかないから。

エ エコノミーとエコロジという二つの言葉は、共に「家」を表す語に、それぞれ「モス」と「ロゴス」という同じ意味の言葉を加えて作られているから。

(7) 傍線部eに関して、「自然のエコノミー」についてのリンネとデイグビーの見解の説明としても最も適切なものを選びなさい。

ア デイグビーにおいては「自然のエコノミー」とは、人間の家庭でなされているような節約に基づいた自己保身を指すのに対し、リンネの場合は、神から自然にもたらされる恩恵を意味するので、両者の見解は基本的には異なっている。

イ デイグビーにおいては「自然のエコノミー」とは、人間の関与がなくとも機能する秩序だった働きを指し、リンネの場合は、神の法とは無関係に保たれるバランスのことを意味するので、自律的という点で両者の見解は異ならない。

ウ デイグビーにおいては「自然のエコノミー」とは、人間の家庭をモデルとした、自然に対する人間の働きかけを指すのに対し、リンネの場合は、自然のうちに働いている神の摂理を意味するので、両者の見解は大きく異なっている。

エ デイグビーにおいては「自然のエコノミー」とは、自然それ自体に本来的に備わっている、均衡を維持するような働きを指し、リンネの場合は、人間も含めた自然の働きに見出される摂理を意味するので、両者の見解は本質的に異なる。

(8) 傍線部①の特徴についての説明としてもっとも適切なものを選び。

ア 「自然のエコノミー」は、ダーウィンよりも前には、自然の秩序が乱されたときに神がそれを修正する保護機能を意味していたが、ダーウィンにおいては、自然が神の支配から自由であることだけでなく、そのなかで生物が生き残りかけた競争を繰り返すことを意味するようになった。

イ 「自然のエコノミー」は、ダーウィンよりも前には、神によって天地創造の際に与えられた原理に従う、静的な自然の秩序を意味していたが、ダーウィンにおいては、自然が動的に変化していくことだけでなく、その秩序が生存競争を伴っていることを意味するようになった。

ウ 「自然のエコノミー」は、ダーウィンよりも前には、神から自然に対して付与された一定の配分秩序を意味していたが、ダーウィンにおいては、自然が系統樹モデルに従って進化することだけでなく、サンゴ礁の例に見られるように複雑な仕方でも適者生存を繰り返すことを意味するようになった。

エ 「自然のエコノミー」は、ダーウィンよりも前には、自然に本来備わっているバランスや均衡を意味していたが、ダーウィンにおいては、自然選択の法則に従って自然が生存競争をするだけでなく、人間社会もまた適者生存の競争を繰り返すことを意味するようになった。

(10) 本文の内容に合致しないものを選び。

ア フンボルトの著書「コスモス」の第II巻は、自然研究を刺激するものについて述べている。そこで挙げられているのは、自然の光景の美しさを文章で表現すること、絵画として描くこと、熱帯植物を幅広く栽培したり珍しい種類の植物を収集したりすることである。

イ 「エコノミー」の訳語である「経済」の、「世を経営を濟す」という本義は、キリスト教の文脈における「エコノミー」の理解と近似したものであった。しかし資本主義経済が発達するにつれて「民を濟す」という部分が忘れ去られていくと、格差が広がることとなり、苦しむ人々が現れた。

ウ アリストテレスは金儲けを目的とした交換活動を「取財術」と呼び、本来の意味でのオイコノミアから区別した。初期キリスト教時代の神学者たちは、アリストテレスからこうしたオイコノミアの考えを受け継ぎ、父と子と聖霊によるこの世の統治と救済の教理へと発展させた。

エ 西洋では、古代ギリシア哲学やキリスト教を通して、自然は宇宙を支配する神の定めた秩序や均衡を有していると理解されてきた。しかし一七世紀を迎えると、多くの自然科学者たちが進化論の萌芽となるような新たな自然観を唱えるようになり、それはやがてダーウィンによって体系化された。

(9) 傍線部②に関して、フンボルトの自然研究に対する考え方の説明としてもっとも適切なものを選び。

ア 科学は分析的で概念的な手法に基づいた、自然についての正確で厳密な知識の蓄積を可能にする。そして自然法則の厳密さが明らかになればなるほど、その科学的知識が人々の詩的で美的な想像力に刺激を与えるので、芸術的創作がいつそう盛んになされるようになる。

イ 科学的な自然の研究は、社会を物質的な面で豊かにするうえで有益であるが、人間の感性や美的な想像力の醸成は芸術によってしかなされ得ないことである。したがって、科学と芸術が対立するのではなく互いに補充し合うことで、自然研究のさらなる発展が可能となる。

ウ 科学を通して自然を分析的に知ることは重要だが、それによって知られる個々の自然の働きを統合し、直観的に全体として自然を捉えることを可能にするのは芸術である。その芸術が科学の営みを刺激するのであるから、科学と芸術は自然を知るうえでどちらも必要である。

エ 科学による自然の研究は、分析的で厳密な知識を人々にもたらす。芸術は感性的で美的な想像力を通して自然について知ることを可能にする。だが人間の想像力は、ときに現実から逸脱した神話や空想を生み出してしまいうので、それらは科学によって修正されねばならない。

2026年度

国語

(時間……60分) (配点……100点)

注意事項

- 1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、[ 10 ]と表示のある問いに対してウと解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄のウにマークしなさい。

Table with 2 rows: 解答番号, 解答欄. Example row shows 10 with options A, B, C, D, E, U, I, E.

- 3. 解答を始める前に、解答用紙の座席番号欄に座席番号を記入し、マークしなさい。また、氏名も書きなさい。解答科目欄には解答する科目をマークしなさい(解答科目欄のマークを間違えた場合、0点となるのでよく確かめてマークすること)。

1 次の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。

(1) 空欄 [ ] を補うのに適切なものをそれぞれ一つ選べ。

- ① 危機 [ ]
ア 初 イ 発 ウ 髪 エ 八

- ② 一日 [ ]
ア 一 イ 百 ウ 千 エ 万

(2) 傍線部のカタカナを漢字に直したときの部首を一つ選べ。

- ア ごんべん イ しんによう
ウ にんべん エ えんによう

(3) 「捕獲」と熟語の組み立てが同じものを一つ選べ。

- ア 未明 イ 猛獣 ウ 技糸 エ 遊戯

(4) 訓読み+訓読みの読み方をすると熟語を一つ選べ。

- ア 人生 イ 母親 ウ 相談 エ 緑線

(5) 「観望を主にす」の意味としてもっとも適切なものを選び。

- ア 人は苦勞してこそ立派になるということ
イ 人は苦勞することで他人に優しくなれるということ
ウ 人は苦勞しすぎると頑固になってしまうということ
エ 人は努力することで美しくなれるということ

(6) 「目から鼻へ抜ける」の意味としてもっとも適切なものを選び。

- ア 頭の回転が早く抜け目がないこと
イ 困っているときにさらさら不運が重なること
ウ 飽きてしまって不快に感じることに意外なことにびびりすること

(7) 傍線部の中で種類が異なるものを一つ選べ。

- ア 彼はなかなかの人格者だ。
イ それは私の本だ。
ウ 日本の首都は東京だ。
エ 市場の魚は安くて新鮮だ。

(8) 井伏鱒二の作品でないものを選び。

- ア ジョン万次郎漂流記 イ 山椒魚
ウ 三四郎 エ 黒い雨

※国語(2月4日実施)の問題は、66ページから始まります。

指定校制推薦入学制度 総合型選抜入試

公募制推薦入試(前期) 「併願制・専願制」

公募制推薦入試(後期) 「専願制」

一般入試「第1期」

国語

一般入試「第2期」



(3) 傍線部の本文中の意味として、もっとも適切なものを選び。 [17]

- ア きちんとして正座をした
- イ ほんやりとして暖味なこと
- ウ 証明せずともわかること
- エ さっぱりしてこだわりがないこと

(4) 傍線部の説明としてもっとも適切なものを選び。 [18]

- ア 人は、風土のなかで慣習を固めて生きていくのであり、私たちの意識も「点」としてあるのではなく、外部を接点をもってはじめて発達するものである。
- イ 孤立した「点」としての私たちの意識が、客観的な「寒気」に出会うのではなく、私たちの意識が、最初から何かに向けられ、その何かとの関係性によって成立するものである。
- ウ 私たちの「点」としての意識が、外部にある「寒気」に出会うことによって、「寒さ」を感じるものであって、外部と関わらないときの私たちの意識は依然として点のままである。
- エ 零下五度なら零下五度の空気が客観的に「寒」としてあるのではなく、私たちの意識が「寒さ」を「寒さ」としてとらえたときに、はじめて「寒さ」は存在する。

(6) 本文中の [A]・[B]・[C] に入る語句の組み合わせとして、もっとも適切なものを選び。 [20]

- |        |      |      |
|--------|------|------|
| A      | B    | C    |
| ア たとはは | つまり  | しかし  |
| イ つまり  | むしろ  | たとはは |
| ウ つまり  | たとはは | しかし  |
| エ たとはは | しかし  | むしろ  |

(5) 傍線部の「批判」に対する著者の意見として、もっとも適切なものを選び。 [19]

- ア そもそも私たちは関係の構造的ななかでしか自然に出会うことはなく、人と出会う前の客観的な「自然そのもの」を感知することなどできないのだから、その批判は当たらない。
- イ 私たちは、日常を送るなかで、絶えず自然環境の影響を与えており、人生のなかで、純粹で客観的な気候や、景観に出会うことはないのだから、その批判は当たらない。
- ウ 私たちは、自分の意識のなかから外部の世界を知ることから、私たちの感じる「寒さ」も主観的なものでしかないのだから「自然そのもの」など存在せず、その批判は当たらない。
- エ 私たちは自然とともに生きてきたのであり、事実として長い時間をかけて自然を人間化してきたのだから、和辻の説は的を射たものであり、その批判は当たらない。

(7) 傍線部の説明として、もっとも適切なものを選び。 [21]

- ア 私たちは、自分の意識のなかに閉じこもっているだけでは、自己を発見することはできないが、外出することによって、はじめて本物の「寒さ」を感じて、「寒い」と感じている自己を発見することができる。
- イ 私たちは、外気の寒冷のもとにあるが故に、寒さを感じるという衣服を着て、暖房器具を用意し、建築を工夫するなど、さまざまな対応策をとってきたが、これによって、長い時間を経て厳しい風土を乗り越えることが可能となった。
- ウ 私たちはみんな育った風土の影響を受けて育つが、ときには自分が育った地域を思い切って離れてみると、自分のことを客観的に見られるようになり、自分がどのような行動の仕方をする人間なのかを理解することができる。
- エ たとはは、寒さを感じると同時に、身を縮め、厚い衣服を着用し、作物を寒さから護るためにさまざまな手段を講じようとするように、人間は風土との関わりのもとにおいて、はじめて自己自身を見いだすと言える。

(8) 傍線部の本文中の意味として、もっとも適切なものを選び。 [22]

- ア のこり少ない部分
- イ 惜しみつつ切り捨てる部分
- ウ 全体から一部を取り除いたあとに残った部分
- エ ありあまつあふれた部分

(9) 傍線部の「世界」の説明として、適切でないものを選び。 [23]

- ア 外の世界に出て、自己が何であるかを深く考え続けて、自己理解に達した者の眼前にのみ立ち現れる世界
- イ 作物を育てることができるといふ土地であるか、必要な水確保できるか、といった関心から眺められる世界
- ウ 自分の心と鳥が天空を飛んでいく姿を重ねたり、寂しさの表象として秋の夕暮れを眺めたりする人が見る世界
- エ 人為的な層を除き去って純粹に客観的な科学的態度で世界を把握しようとする人間の前に現れる世界

(10) 本文の内容と合致するものを選び。 [24]

- ア たとはは鳥の飛翔を見たときや、秋の夕暮れをみつめたときなど、私たちの意識は、自分の感情と光景を結びつけて理解している。私たちは自分の感情をまったく関係なく客観的に光景を眺めることはできないのであり、眼前にひらがる自然はすべて私の意識のなかの世界だと言いうことができる。
- イ モンストン地帯でも沙漠でもヨーロッパでも、人間は厳しい気候に耐えうる建築物を造るなどして、自然に適応してきた。自然を生かす基盤たる「風土」となすためには、人間が自然に働きかけてそれを変化させる必要があり、人間の影響を受けていない客観的な自然など存在しない。
- ウ 人間が自然に向き合うとき、たとはは作物を育てることが可能な広さや養分をそなえた土地であるか、必要な水を確保できる場所であるかなど、なんらかの関心をもって自然を見ることになる。そのような意志を持って、人間は風土の外に出るのであり、そこではじめて自己理解に至るのである。
- エ 私たちの意識は、元来「志向的」なものであり、風土の外に出ることによって、自己を見いだし、自己が何であるかを理解することができる。そのため、私たちが見る光景も人間の関心と結びついた「人為的光景」であり、主観的客観、自然対文化といった図式的理解でとらえることはできない。

指定校制推薦入学制度  
総合型選抜入試

公募制推薦入試【前期】  
【併願制・「専願制」】

公募制推薦入試【後期】  
【「専願制」】

一般入試【第1期】

国語

一般入試【第2期】

※国語（2月5日実施）の問題は、64ページから始まります。

2026年度

# 国語

(時間……………60分)  
(配点……………100点)

### 注意事項

- 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**10**と表示のある問いに対してウと解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄**ウ**にマークしなさい。

(例)

解答番号	解答欄
10	ア ○ イ ○ ウ ● エ ○

- 解答を始める前に、解答用紙の座席番号欄に座席番号を記入し、マークしなさい。また、氏名も書きなさい。解答科目欄には解答する科目をマークしなさい(解答科目欄のマークを間違えた場合、0点となるのでよく確かめてマークすること)。

- 1 次の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。
- 空欄  を補うのに適切なものをそれぞれ一つ選べ。
- ① 温  知新  1
- ア 故 イ 冷 ウ 湖 エ 礼
- ② 傍目  目  2
- ア 七 イ 八 ウ 九 エ 十
- (1) 傍線部のカタカナを漢字に直したときの部首を一つ選べ。
- 粒の「**ア**」の砂を漉く。
- ア かいへん イ おおがし  
ウ さんずい エ こめへん
- (2) 「遊覧」と熟語の組み立てが同じものを一つ選べ。
- ア 微量 イ 尋問 ウ 握手 エ 恒常
- (3) 訓読み+訓読みの読み方を示す熟語を一つ選べ。
- ア 台所 イ 弱気 ウ 夕立 エ 性格
- (4) 中島敦の作品でないものを一つ選べ。
- ア 李陵 イ 山月記 ウ 高瀬舟 エ 文字禍
- (5) 「木に竹を接ぐ」の意味としてもっとも適切なものを選べ。
- ア よりよいものを用いて完成度を高めること  
イ ありあわせのもので間に合わせることに似たもの同士を組み合わせること  
ウ エ 木のことつながりが不自然であること
- (6) 「折り紙付」の意味としてもっとも適切なものを選べ。
- ア 商売が繁盛すること  
イ 価値が確かだと保証されていること  
ウ 立派なふりをすること  
エ 権力のある者に従うこと
- (7) 傍線部の中で種類が異なるものを一つ選べ。
- ア 何度頼んでも返事がない。  
イ それくらいは子どもでもわかる。  
ウ 専門家でわからない問題に挑戦する。  
エ どんなことでも見逃さない。
- (8) 傍線部の中で種類が異なるものを一つ選べ。
- ア 李陵 イ 山月記 ウ 高瀬舟 エ 文字禍

## 2

次の文章を読んで後の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。

言葉の意味は大事だ。それは私たちのコミュニケーションを可能にする基礎の一つであり、コミュニケーションが社会の基礎である限り、言葉の意味は私たちの社会のインフラの一つだ。明日は雨だよ」という妻の発言を聞いて、娘がランドセルにレインカバーをかける。こうしたやり取りが可能になるのは、「雨」という言葉が雨天を意味するからであり、そのことが妻と娘との間で共有されているからだ。言葉の意味というのは、コミュニケーションを成立させるために社会で共有されたインフラの一つなのだ。

さて、社会のインフラとはときに壊れる。インフラが壊れたら修理が必要だ。水道管が壊れたら早急に直さなければならない。あるいは社会の変化に応じてインフラを整備し直す必要があることや、進んだインフラの整備が社会の変化をウナグすることもあるだろう。今あるインフラのあり方にこうした相互作用を見取することは難しくない。また、インフラを動かすような行為は反社会的な行為として厳しく取り締まられるべきだ。たとえば道路法がさまざまな形態の通行妨害を禁じるように、同じことは言葉の意味というインフラについても成り立つ。インフラとして言葉の意味に何か不具合が生じたら、修理したり改良したりする必要があるだろう。新たな言葉の意味の導入によっていまだあるコミュニケーションにポジティブな変化を引き起こすことも可能かもしれない。もし誰かがインフラを壊すような行為に及んでいたら、そうした行為はまさにそのことゆえに非難されるべきだし、もしそれでインフラが壊れてしまった

べきことの一つは、言葉の意味を変えることである(もちろん婚姻の社会制度を整備することの重要性は論外だ)。このように、言葉の意味を変えようとするとき、社会によりよい変化をもたらそうとする試みも概念工学の一種である。

概念工学のこうした営みの大前提は、言葉の意味は変えられる、ということだ。確かに、言葉の意味は空不変ではない。時間の経過に伴って言葉の意味が少しずつ変わっていく、というものはよくある話だ。あるいは「惑星」のように、ある時点での科学的に言葉の意味が変更される、ということもときに起こる。こうした意味の変化を考へるにあたって重要な一つの「B」的な問題がある。そもそも言葉の意味はどう決まるのか。これはメタ意味論と呼ばれる分野で研究されている問題だ。

メタ意味論における一つのユウリよくない立場は、言葉の意味は、それを用いる個々の人の意図や思想を超えた、環境的・社会的要因によって決定されている、という立場である。こうした立場は外在主義と呼ばれる。

たとえば日本語の「水」という言葉は液体の「H<sub>2</sub>O」を表す言葉だが、環境が進化し、その言葉は「H<sub>2</sub>O」以外のものを表す言葉になっていくかもしれない。私たちの地球をそっくりなだけと一つだけ違う違いがあつて、身の回りには、無色透明で、ときに空から降ってきて、また飲料として利用可能な液体が「H<sub>2</sub>O」ではない別の化合物であるような惑星Ⅱ(地球を考えたとき)で、「水」は「H<sub>2</sub>O」ではなく、その別の化合物を表す言葉として使われているだろう。地球でも、双子地球でも、まだ科学が水の組成を解明する以前から、それゆえ地球人と双子地球人が水とは何かについて同じ考えしかもっていない時代でも、こうした意味の違いはあつたはずだ。ヒラリー・パトナムはこうした思考実験に基づき、言葉の

なら修理が必要だ。

ある言葉を今の意味で使っていると何か問題が生じる。その問題に対応するためにその意味を改良する。改良で間に合わないならば、新たな言葉や概念を作る。こうした営みは、概念工学と呼ばれる。概念工学は言葉の意味という社会インフラ整備の企てである。

「惑星」とい言葉の例に取らう。二〇〇六年に開催された国際天文学連合総会で、「惑星」の次の定義が採られた。

太陽系の惑星とは、(a) 太陽の周りを回り、(b) 十分な質量を持つので、自己重力が固体に働く他の種の力を上回って重力平衡形状(ほとんど球状の形)を有し、(c) 自身の軌道の周囲から他の天体をきれいに掃除してしまつた天体である。

この定義によれば、それまで太陽系惑星とされてきた冥王星ははや惑星ではない。この変更の背景には、それに先立って、冥王星と似た軌道・サイズの天体が次々と発見されたことがあつた。これらの天体を冥王星と同様に太陽系の惑星としてしまうと、惑星の数が増え過ぎてしまう。「惑星」の新たな定義は、新たに発見された天体を惑星からハイじよすることでの問題に対処した。それと同時に、いわばその副作用として、冥王星が惑星でなくなるといことが生じたのである。

概念工学の対象は、「惑星」のような「A」的な言葉に限られない。たとえば「結婚」という言葉の意味を広辞苑第七版(昭和三十三年)で調べると「男女が夫婦となること」とある。同期間の結婚が「結婚」の意味からしてあり得ないのだとすれば、インクルーシブな社会を目指すために私たちが

意味は環境に依存していると考えた。

あるいは「無」と「極」はそれぞれバナナとニレ科のいくつかの植物の総称だが、その二つを前にして区別できる人は多くないであろう。それを区別できるのはある種の専門家であり、「無」と「極」という言葉の意味の違いは、そうした専門家の区別が委ねられている。素人は、自分で無と極を区別はできないけれど、それも専門家のおかげで、「無」はバナナ科の植物、「極」はニレ科の植物を意味する表現として使うことができる。

一部の専門家に言葉が何を意味するかが委ねられているこうした状況は、パトナムは言語的分業と呼ぶ。あるいはソール・クリプキが言うように、言葉がどんな仕方でも使われ始め、どんな仕方でも広まっていったのか、つまり言葉の発生と伝播という社会的・歴史的要因も、言葉の意味を左右する。「ソラリス」という名前が今でも近代ギリシアの哲学者ソラリスの名前であるのは、誰かその人物を「ソラリス」と名付け、それが現代まで使われ続けてきたから。

メタ意味論における外在主義は、概念工学に次のような問題を突きつける。それは、人は自分が用いる言葉の意味の変化をそもそもコントロールできるのか、という問題だ。言葉の意味は、概念工学者個人の思想だけで変わるわけではない。それはハンブレイ・ダンパターの言語観である。さらに、環境や社会への意味の依存がどんなメカニズムで生じているのかについて私たちは精確な理解をまだもっていない。環境への依存があれば、社会的要因への依存があれば、そのメカニズムがよくわかっていない現状では、意味を変えようと思つても、どうすればよいのかよくわからないではないか。また、仮に意味の変化のメカニズムがわかったとしても、それが人に簡単にコントロールできるのだとは限らない。言葉の意味がその言

業が受け継がれてきた社会の歴史によって決まるのなら、意味を変えるには新たな歴史を作る必要がある、それはおいそれとできるようなことではない。さらに、環境要因が意味のあり方を左右するのなら、環境要因そのものをコントロールしたり、あるいは環境要因が決定する仕事をコントロールしたりする必要があり、仮にそれができなければ、ある種の概念工学はそもそも無用であろう。たとえば「結婚」の意味を同性間関係の概念工学に変えるために、それに先立つて同性婚が社会に認められ、広まる必要があるとすれば、言葉の意味を変えることで社会を変えようという試みは広まるかどうかはさまざまな要因で左右される。そうした原因のすべてを理解しコントロールできるような状況に私たちがいないだろう。意味を変えたいという企てで、同様なのではないか。概念工学の基礎にあるメタ理論士の問題に関するこうした状況はハイマン・カレンは次のようにまとめている。

・ 認識的な論点：意味決定のメカニズムのシヨウウは、大抵の場合、非常に複雑で「C」的ではなく、とらえどころのないもので、私たちが完全に理解するものではない。  
 ・ 形而上学的論点：意味決定のプロセスは、私たちのコントロールの及ばないような要因に左右される。仮に認識的な限界を克服しようとすると（意味を決める要因が何かかわかったとしても）、意味変化をコントロールできるとは限らない。

では概念工学は端から無理な企てなのだろうか。カレンの議論の面白いところは、概念工学の必要性が揺るがない以上、こうした難問にもかかわらず、私たちはそれをやるしかない、と考えるところだ。それは子育てに似ている。どんな要因がどんな仕方とどんなふうに関与しているのかを完全に見通すことなどできないし、それを完全にコントロールすることなどできない。D. だからといって、子育てをばうキツな理由にはならない。ともかくやるしかない。概念工学や、多くの社会的な問題への対応もそれに似ている。わかりやすい方法論、ましてや完璧な方法論などないけれど、改善すべき状況がそこにあるのだから、ともかくやってみるしかない。

（藤川哲也「誤解を招いたとしたら申し訳ない 政治の言葉 言葉の政治」による）

（注）ハイマン・カレンの言語観：自分が言葉を使うとき、その言葉の意味は自分の好きなように変えられると考える言語観。

- (1) 二重傍線部①⑥のカタカナの部分を選択したとき、その漢字と同じ漢字を用いるものをそれぞれ一つずつ選べ。
- ① ハレツ ⑩
- ア 党内でのハレツ争いが激化する。  
 イ 財政状況をハレツする。  
 ウ フルマランをそうハスする。  
 エ 平均値のハスうを切り捨てる。

- ② ウナガサ ⑪
- ア 災害にウナガサした対応をする。  
 イ 出欠の遺事をウナガサする。  
 ウ 結果がウナガサだと批判される。  
 エ 事態がしゅうウナガサに向かう。

- ③ ハイヒョ ⑫
- ア 上司の命令にハイヒョする。  
 イ 干ばつにより田畑がハイヒョする。  
 ウ 教室では反対意見がハイヒョ的になる。  
 エ 有毒ガスを室外へハイヒョする。

- ④ ユワリよく ⑬
- ア 新人候補が選挙でユワリよくなる。  
 イ 会社の理念をユワリよに語る。  
 ウ その地域にユワリよの鳥獣を観察する。  
 エ 大河にユワリよの歴史を感じる。

- ⑤ ショウウさい ⑭
- ア 作者がショウウの絵画が見つかった。  
 イ 主張のショウウとなるデータを示す。  
 ウ 自社製品をショウウひひ登録する。  
 エ 新内閣のしゅショウウが決まる。

- (3) 傍線部bについて、「副作用」の説明としてもっとも適切なものを選べ。
- ⑬
- ア 太陽の周りを回り、またほとんど球状である冥王星は、太陽系惑星だとされていたが、冥王星に似た軌道をもつ天体が複数発見された結果、国際天文学連合総会は惑星の定義を見直さなければならなくなった。  
 イ 天文学の進展によって冥王星と似た軌道の天体が次々と発見されたが、その結果、それらを含めると太陽系惑星の数が増え過ぎてしまったため、ほとんど球状であるという要件を含めて、惑星の定義を新たに見直さなければならなくなった。  
 ウ 冥王星が太陽系惑星であることを否定する確実な要因を天文学者が発見したこと、冥王星を惑星の定義から外すことはできたが、その結果、冥王星と似た軌道をもつ他の多くの天体まで惑星ではなくなってしまう。  
 エ それまで太陽系惑星として認識されていた冥王星に類似する性質をもつ天体が多数発見された結果、それらの天体が含まれないよう惑星の定義を整備することはできたが、省かれた天体と同様に冥王星でも惑星の定義から外ることになった。

(7) 傍線部eについて、この「問題」に対する著者の説明としてもっとも適切なものを選べ。

⑮

ア 言葉の意味は長い歴史を経て社会的に共有され、また現在の環境からも大きな影響を受けて決定されるものであったため、私たちが意味の変化をコントロールする必要がある。  
 イ 言葉の意味はさまざまな要因によって決まるが、私たちはまだそのメカニズムを正確に理解していないが、仮に理解できたとしても言葉の意味の変化をコントロールすることは困難である。  
 ウ 言葉の意味は環境要因によって決定されるものであり、私たちが環境に依存して生きている以上、私たちが使う言葉の意味は、私たちが意図的にコントロールすることは不可能である。  
 エ 言葉の意味は環境や社会に依存しており、その依存のメカニズムを正確に理解することさえできれば、私たちは言葉の意味の変化をコントロールすることができる。

- ウ 地球でも双子地球でも、「水」という言葉はH<sub>2</sub>Oを指すのであり、たとえば、とき空から降ってきた、飲料としても使えるという性質をもっていたとしても、それがH<sub>2</sub>Oでなければ、その液体が「水」と呼ばれることはあり得ない。  
 エ 「水」という言葉は、身の回りにあり、無色透明で、ときに空から降ってきた、飲料としても使える液体のことを指すが、H<sub>2</sub>O以外の化合物が同様の性質をもつような惑星では、その化合物が「水」と呼ばれてもおかしくない。

- (8) 傍線部fの理由としてもっとも適切なものを選べ。
- ⑯
- ア 現在の日本社会で「結婚」という言葉の意味は同性間の婚姻が含まれていないことが示すように、社会のあり方よりも先に言葉の意味が自然に変化するとは言い難い。  
 イ 言葉の意味を変えるためには、その言葉を受け継がれてきた社会の歴史を新たな観点から認識することが必要であり、その認識さえできれば、人が使う言葉の意味は自然に変化するから。  
 ウ 言葉の意味を変えることの目的の一つは、環境をより良いものにするのであり、人が環境を直接コントロールできるなら、言葉を通じて社会を変える必要がなくなるから。  
 エ 環境と言葉との関係を正しく理解できれば、言葉の意味を変えることは容易であり、わざわざ人が概念工学的に言葉の意味を変えるべく言葉に働きかける必要はないから。

- (9) 本文中の「D」に入る文としてもっとも適切なものを選べ。
- ⑰
- ア どんな家庭にも当てるべき方法の子育てメソッドなんてない  
 イ 確かにすべての家庭にとって適切な方法はどこかにあるだろう  
 ウ しかし教育によって子供の成長を一定程度管理できる  
 エ 子育ては社会の介入によって初めてコントロール可能になる

- (4) 本文中の「A」「B」「C」に入る語の組み合わせとしてもっとも適切なものを選べ。
- ⑯
- A 理論 哲学 体系  
 B 理論 体系 多面  
 C 理論 体系 重層  
 D 科学 社会 統一

- (6) 傍線部dについての著者の説明としてもっとも適切なものを選べ。
- ⑰
- ア 私たちが「権」と「権」を区別できるのは、それぞれの植物の性質で専門家によって見分けられ、その定義に従って名付けられているからであり、「権」と「権」という呼び名がかわらぬ限り、その言葉の定義も変わることはない。  
 イ 「権」という言葉で呼ばれる植物は、そう呼ばれる前から「権」としての不安の意味をもっており、私たちは専門家の定義に従って正確な知識をもっている限り、「権」と「権」を見間違えることはない。

指定校制推薦入学制度  
 総合型選抜入試  
 公募制推薦入試(前期)  
 「併願制」・「専願制」  
 公募制推薦入試(後期)  
 「専願制」

一般入試「第1期」  
 国語  
 一般入試「第2期」

(10) 本文の内容に合致するもの一つ選べ。 [24]

- ア 「拙」 と 「檢」 という言葉の意味の違いが専門家による区別に委ねられているように、ある言葉の意味は、それが指す物事に対する具体的な定義を理解することで精確にコントロールすることができる。しかし、私たちは、言葉の意味をコントロールするためのメカニズムをまだ理解できていないため、理解するための努力を続けなければならない。
- イ ある言葉の意味に社会的な不具合が生じたら、その意味を改良したり、新たな言葉を作ったりする営みである概念工学は、そもそも言葉の意味は変えられるということを前提としている。したがって、言葉の意味のメカニズムに対する概念工学的な操作を徹底すれば、私たちは自在に言葉の意味と社会との相互作用をコントロールすることができる。
- ウ そもそも言葉の意味はどう決まるのかという問いを発するメタ意味論は、言葉の意味が社会や環境とは関わりなく変化するということ、外在主義の立場をとる。その立場によれば、言葉の意味は、環境要因から影響を受けることなく、その言葉が指す物事がそもそも持つ意味に対する私たちの概念操作によって、変化すると見える。
- エ 社会の変化に応じて交通手段を整備したり、交通手段を整備することで社会が良くなったるように、言葉の意味も社会との相互作用のもとで変化するのである。しかし、その変化のメカニズムを理解することは容易ではないため、私たちは、道路を修理するように言葉の意味を意図どおりにコントロールできない。

※国語（2月6日実施）の問題は、61ページから始まります。